

課題番号	7-2-5	分野名	特用林産	予算区分	国庫
研究課題名	自然活用型特用林産物の生産技術の開発 2-5 (自然栽培きのこの多品目安定生産技術に関する研究)【アラゲキクラゲ】				
担当者名	大橋 洋二・谷山 奈緒美		研究期間	平成 19～22 年度	

目的

アラゲキクラゲの菌床露地栽培特性を把握することを目的として、収穫量を増加させる菌床の伏せ込み方法を検討し、併せて培地組成の検討も行った。伏せ込み方法は、完熟した菌床を、袋の上から切れ込みを入れる切開法が適していると考えられていることから、本試験においては3種の切開の方法について試験を行い、併せて菌床しいたけ栽培で行われている、いわゆる上面栽培方法の実用性を検討した。

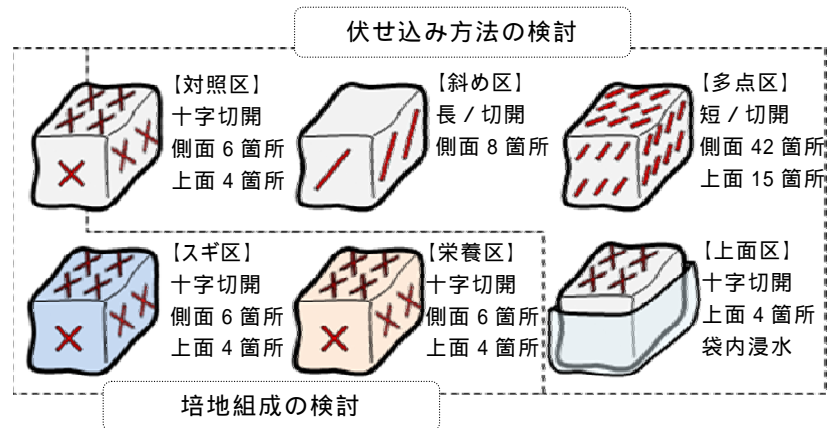


図-1 栽培試験の方法（各試験区 10 菌床）

方法

培地にはコナラおが粉：米ぬかを絶乾重量比 10：3 で配合したものを【対照区】とし、スギおが粉：米ぬかを 10：3 で配合したものを【スギ区】、コナラおが粉：米ぬか：フスマを 7：3：3 で配合したものを【栄養区】として、3種類の培地の検討を行った。切開方法を含めた各試験区の詳細を図-1 に示す。供試菌株は大貫菌茸の A2 号を使用し、45 日間培養後、平成 22 年 7 月 1 日に菌床の伏せ込みを行った。伏せ込みは道路脇の寒冷紗覆いのパイプハウス下で行い、地面にワラを敷き均し、その上に菌床を配置した。さらにトンネルフレームを設置し、不織布で覆った。

結果概要

各試験区の収穫量を表-1 に示す。培地組成の検討については、【対照区】と比較して、【スギ区】では収穫量が大きく減少しており、【栄養区】では大きく増加する傾向がみられた。このことから、アラゲキクラゲの培地基材として、スギ材は適していないと考えられる。また、栄養材を増加させることで、収穫量が顕著に増加する傾向がみられた。

伏せ込み方法の検討については、対照区と比べた収穫量は、【斜め区】と【上面区】で同程度、【多点区】で増加する傾向がみられた。【上面区】では袋内を浸水させたことによる増収効果はみられず、逆に子実体周辺にキノコバエ類が多数観察された。子実体への被害は少なかったものの、袋内が滞水したことで、ハエ類が集まりやすい環境が出来てしまったことが原因と考えられた。

表-1 各試験区毎の収穫量と発生部位

	対照区	スギ区	栄養区	斜め区	多点区	上面区
総収穫量(g)	2,289	1,166	4,098	2,733	3,150	1,992
1 菌床当り(g)	229	117	410	273	315	199
標準偏差	28	19	46	54	21	45